

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 3 部門第 3 区分
 【発行日】 平成 18 年 2 月 2 日 (2006.2.2)

【公開番号】 特開 2005-290219 (P2005-290219A)
 【公開日】 平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)
 【年通号数】 公開・登録公報 2005-041
 【出願番号】 特願 2004-108142 (P2004-108142)
 【国際特許分類】

C 1 0 G 67/06 (2006.01)
C 0 1 B 3/40 (2006.01)
C 1 0 G 25/03 (2006.01)
C 1 0 G 45/08 (2006.01)
C 1 0 L 1/04 (2006.01)
H 0 1 M 8/06 (2006.01)

【F I】

C 1 0 G 67/06
 C 0 1 B 3/40
 C 1 0 G 25/03
 C 1 0 G 45/08
 C 1 0 L 1/04 Z A B
 H 0 1 M 8/06 G

【手続補正書】
 【提出日】 平成 17 年 12 月 13 日 (2005.12.13)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 0 0 1 3
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 3】

工程 (3) では、工程 (1) の水素化脱硫処理油を工程 (2) で軽質分をストリップ (除去) した後、温度 150℃～250℃、圧力 1～5 MPa の条件下でゼオライトにより直鎖飽和炭化水素を 10 容量% 以上抽出除去する。

直鎖飽和炭化水素の除去の抽出温度は 150℃～250℃であり、好ましくは 180～200℃である。抽出温度が 150℃未満の場合、十分な直鎖飽和炭化水素の除去速度が得られない。一方、250℃を超えると、直鎖飽和炭化水素の除去効率が低下する。また、この時の圧力は、1～5 MPa であり、好ましくは 1.5～3 MPa である。圧力が 1 MPa 未満であると十分な直鎖飽和炭化水素の除去速度が得られない。一方、5 MPa を超えると十分な直鎖飽和炭化水素の除去速度が得られない。直鎖飽和炭化水素の除去に使用するゼオライトは特には限定されないが一般的には A 型ゼオライトが使用され、その中でもモレキュラーシーブ 5A が好ましい。以上の条件で、直鎖飽和炭化水素を 10 容量% 以上、好ましくは 20 容量% 以上抽出除去することが必要である。